

「ねっ！ おじいちゃん」

植木 涼太

「ねっ！ おじいちゃん」この言葉は、ぼくが祖父によく使う言葉です。何事にもうなずいて話を聞いて、味方になってくれる祖父がぼくは大好きです。どんな時でもぼくの力になってくれる祖父に感謝の気持ちをおこめて、ぼくと祖父のある出来事をお話ししたいと思います。

始まりは、木々の葉が色づき始めた秋の一日のこんな会話でした。

「おじいちゃん、ぼくの背がのびないんだよ。夏休みにたくさんの友達に追い抜かされんだ。なんで伸びないのかな・・・。」

すると祖父は、

「大丈夫。時期が来たら必ず伸びるから。それまで牛乳を飲んだらいいよ。」

と、笑って言いました。ぼくは内心、牛乳かあと思いました。飲んで伸びる気がしなかったのです。

そんな何でもない会話をしてから数日後、祖父が倒れました。祖父はすぐに入院になり、面会謝絶の札がはられて、子供のぼくは病室に入る事もゆるされませんでした。そんな中、家族がお見舞いに行くとき必ずある物を持って帰ってくるようになりました。それは、祖父の食事に出来る牛乳です。すぐにぼくのためだとわかりました。病室から出られない祖父が

どんな思いでと考えたら胸がいっぱいになりました。きっと自分に出来る最大限の事を考えたのでしよう。そんな日々が続き、あと数日で桜の開花が見れる頃、祖父は静かに旅立ちました。もちろん最後まで家族に牛乳をたくして。

ぼくは後悔しました。ずっと祖父と一緒にいられると思っていたので、ありがとうを伝え忘れてしまいました。ちゃんと目と目を見て、自分の口からありがとうを言える毎日があつたのに、どうしてそれができなかったのだらうと思ひました。そして、ありがとうが言える相手がいる事がありがとうだつたんだと気づきました。

こんな出来事から早くも数ヶ月がたちました。おじいちゃん、空の上で元気にしていますか？ 桜が咲いてから、ぼくの身長は6センチ伸びました。毎日、楽しく学校に通っています。おじいちゃんのお陰で、悩んでいた身長の話も解決しました。やっぱりおじいちゃんはぼくの味方で大好きなおじいちゃんです。これからもずっとずっと見守っていてほしいから、さよならは言いません。

「おじいちゃんありがとう。」

これでいいよね。ねっ！ おじいちゃん。